

## 昭和63年度シグマ特別専門委員会／シグマ研究委員会議事録（案）

日 時： 昭和63年7月8日（金） 11:00～17:40

場 所： 日本原子力研究所 本部 第1会議室

出席者： 鹿園 直基(主査、原研)、飯島 俊吾(NAIG)、五十嵐信一(原研)、池上 栄胤(阪大)、石黒 幸雄(原研)、梅沢 弘一(原研)、大竹 巖(ISL)、加藤 敏郎(名大)、金子 義彦(原研)、神田 幸則(九大)、菊池 康之(原研)、喜多尾憲助(放医研)、北沢日出男(東工大)、木村 逸郎(京大)、瑞慶覧 篤(日立)、関 泰(原研)、関 雄次(MAPI)、竹田 敏一(阪大)、橋爪 朗(理研)、長谷川 明(原研)、馬場 護(東北大)、松延 廣幸(住友原工)、宮原 昭(名大)、若林 利男(動燃)、吉田 正(NAIG、中嶋氏の代理)

オブザーバー： 浅見 哲夫(原研)、柴田 恵一(原研)、中川 庸雄(原研)

欠席者： 岡下 宏(原研)、椛山 一典(東北大)、高橋 亮人(阪大)、中沢 正治(東大)、中嶋 龍三(法政大)、中村 知夫(原研)、藤田 薫頭(京大炉)、水本 元治(原研)、村田 徹(NAIG)

### 配布資料

1. 運営委員会（62年7月～63年7月）議題
2. 第3期第3回諮問調整委員会議事メモ
3. 62年度シグマ特別専門委員会（シグマ研究委員会）議事録
4. シグマ研究委員会62年度委員会開催実績
5. 核データ国際会議資料
6. 委員名簿（案）
7. 「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会資料
8. 原子力学会30周年記念事業計画と30周年記念特集号について
9. 昭和62年度原研に於ける中性子核データの測定活動
10. 崩壊熱評価ワーキンググループ昭和62年度の活動と63年度計画
11. 核種生成量評価WGの活動

12. 炉定数専門部会62年度経過と63年度計画
13. 核データ専門部会報告
14. WRENDAグループ資料
15. 核構造データ評価グループ資料

## 議 事

### 1. 報告事項

#### 1.1 運営委員会報告

配布資料1により、五十嵐氏が62年7月から63年7月までに開かれた7回の運営委員会の報告を行った。

#### 1.2 諮問調整委員会報告

諮問調整委員会委員長楢山氏が欠席のため、飯島氏が配布資料2を説明した。

#### 1.3 事務局報告

62年度本委員会の議事録（配布資料3）を、運営委員会で確認し、原子力学会に送った事を浅見氏が報告した。

また、同じく浅見氏が配布資料4により、62年度のWG等の会合開催状況を説明した。

#### 1.4 核データ国際会議終了報告

五十嵐氏が核データ国際会議の参加者数は329で最終発表件数は262件であった事を報告した（配布資料5）。また、会議当日、中国とソ連の参加者から発表申し込みがありポスター発表として受け入れたことが報告された。

### 2. 本委員会人事

#### 2.1 主査改選

主査改選に先立って浅見氏が規約を説明した。その後、無記名の投票を行い、鹿園氏が14票（総有効票数20票）を獲得して再選され、今後2年間シグマ特

別専門委員会の主査を務めることになった。

## 2.2 委員名簿の承認

浅見氏が63年度のシグマ特別専門委員（シグマ研究委員会本委員）、運営委員、諮問・調整委員の運営委員会案（配布資料6）を説明し、承認された。また、池上氏が、赤石良紀氏（北大）と交替したい旨申し出、承認された。

## 3. 原子力学会関係事項

### 3.1 原子炉崩壊熱基準研究専門委員会

1987年4月に原子力学会に設置された標記研究専門委員会の活動（配布資料7）を加藤氏が説明した。現在までに7回の会合を開き、崩壊熱データ利用の現状と要求の分野毎の調査等を行ってきた。現在、報告書の骨子を検討している。

### 3.2 原子力学会特別会合

中川氏が、62年秋の大会と、63年春の年会の（核データ・炉物理）合同特別会合について報告した。また、63年秋の大会の特別会合のプログラムを紹介した。

### 3.3 原子力学会30周年記念行事について

菊池氏が配布資料8を紹介した。来年2月に、記念式典を行うとともに、和文、欧文誌で30周年記念特集号を発行する。核物理、核データの部分の執筆担当者、執筆要項を説明した。

また、最近欧文誌への投稿が減少しているので、どんどん投稿して欲しいとのことであった。

## 4. 国内研究機関の核データ活動

### 4.1 核データ小委員会

特に報告事項なし。

### 4.2 理研

橋爪氏から、理研で行っている荷電粒子核反応データの活動について報告があった。

#### 4.3 大学および関連機関

神田氏から核データ国際会議で発表された大学関係の論文数等の説明があった。

木村氏が、京大炉で「核分裂と核破砕の物理と工学」の研究会を8月10日に開くこと、今年度トリウム関係の研究が科研費で取り上げられたこと、京大の研究炉の運転が、秋から再開されることを報告した。

#### 4.4 民間研究機関

特に報告事項なし。

#### 4.5 原研

浅見氏が原研のタンDEM加速器とリニアックを用いて行われた測定（配布資料9）を紹介した。

### 5. 特別講演

#### 5.1 核融合炉工学研究の現状

関 泰氏が、今年4月10日から15日に、東京プリンスホテルで開かれた I S F N T (International Symposium on Fusion Neutronics Technology) の概要、ITERのブランケット設計の現状等を説明した。

#### 5.2 前平衡核反応に関する専門家会議

柴田氏が、今年2月10日から12日に Semmering (オーストリア) で行われた標記会合について報告した。参加者は約40名で26件の発表があった。数件の発表論文の要点を説明した。

#### 5.3 JENDL-3編集の現状

浅見氏が、昨年の核データ研究会以降のJENDL-3編集状況を報告した。「研究会で指摘された問題点を整理し、JENDL-3Tの修正を行っているが、

核データ国際会議の影響で作業が遅れている。9月中にはファイル編集を終えたい」と説明した。

## 6. シグマ研究委員会昭和62年度活動報告および63年度活動計画

### 6.1 核構造・崩壊データ専門部会

吉田氏が配布資料10（崩壊熱評価WG）、11（核種生成量評価WG）を説明した。

崩壊熱評価WGは、JNDC FP崩壊データライブラリー第2版と、ガンマ線スペクトルのデータベースを完成した。

医学用原子分子・原子核データWGについては、63年度に、データの要求をまとめ、かつ、データを利用し易い形にまとめるなどの作業を予定している事を喜多尾氏が報告した。

### 6.2 炉定数専門部会

長谷川氏が配布資料12を説明した。JENDL-3Tの積分テストを終了し、核データ研究会や核データ国際会議で報告した。63年度は、改訂されたJENDL-3のベンチマークテストを行う。

### 6.3 核データ専門部会

重核SWGを中川氏、核融合核データWGを神田氏、 $(\alpha, n)$  反応データSWGを松延氏、その他のWGの活動を飯島氏が報告した（配布資料13）。JENDL-3の評価作業は62年度に終了したが、63年度は、ベンチマークテストの結果に対処し、評価の報告書作成のために、62年度の組織を在続させる。また、評価活動調査タスクフォースを発足させる。

### 6.4 CINDAグループ

62年度は3回の会合を開いた。最近、核データ国際会議のプロシーディングス用CINDA索引作成を行った事を中川氏が報告した。

### 6.5 WRENDAグループ

62年度にWRENDAグループがまとめた核データ要求リストは78件で、JAERI-M 88-067にまとめ、グループメンバーの交替を行ったことを五十嵐氏が報告した（配布資料14）。

#### 6.6 核構造評価グループ

「62年度にはA=118, 120 の評価を終了し、63年度はA=119, 121, 177 を完了させる予定である。田村氏が原研を退職したので、喜多尾氏がグループリーダーになり、国際ネットワークの窓口は五十嵐氏があたることになった」と喜多尾氏が報告した。（配布資料15）

#### 7. 核データ研究会準備状況

瑞慶覧氏が、核データ研究会の準備状況を以下の通り報告した。

今年の研究会は、12月8日と9日に茨城原子力センターで行う予定である。主テーマとして“核データの調整と微分・積分データ”、その他、トピックス、ポスター発表を予定してる。昨年同様発表論文の公募をする。最終プログラム案は、次回（7月15日）の研究会準備委員会で議論される。